

ふりそそぐ太陽の光をエネルギーに 「太陽光発電」

太陽光発電は無尽蔵な太陽光を利用し、CO₂の排出を抑制するクリーンな発電方式として注目されています。住宅の屋根などを利用した太陽光発電システムの設置軒数は、年々増加傾向にあります。

● 太陽光発電による電気の流れ



1 太陽電池モジュール

屋根などに取り付け、太陽光エネルギーを直接電気に変換します。

2 パワーコンディショナ

太陽電池モジュールで発電した直流の電気を交流の電気に変換します。

3 屋内分電盤

パワーコンディショナが変換した電気や、東京電力から送られてきた電気をご家庭内の配線に分けます。

4 電力量計

東京電力に売った電気や、東京電力から購入した電気を計量します。

平成22年度の住宅用太陽光発電向け補助金について

1 対象となる太陽光発電システムの概要

(1) 対象となる太陽光発電システムの概要

- ・変換効率が一定の数値を上回るもの(太陽電池の種類ごとに基準値を設定)

(2) 一定の品質・性能が一定期間確保されているもの

- ・電気安全環境研究所(JET)の「太陽電池モジュール認証」相当を受けているもの
- ・性能の保証、設置後のサポート等がメーカー等によって確保されているもの

(3) kWあたりのシステム価格が一定以下のもの

- ・システム価格が65万円/kW以下(税抜)であり、高い普及効果が見込まれるもの

※このほか、住宅太陽光発電の設置に伴い、変圧器等の系統連系に係る工事費負担を要する場合の特例が設けられます(詳細検討中)

2 補助単価

7万円/kW

3 今後の予定

- ・平成22年度の補助事業は、4月中下旬から募集を開始します。
- ・上記のほか、詳細は4月中旬を目途にお知らせいたします。

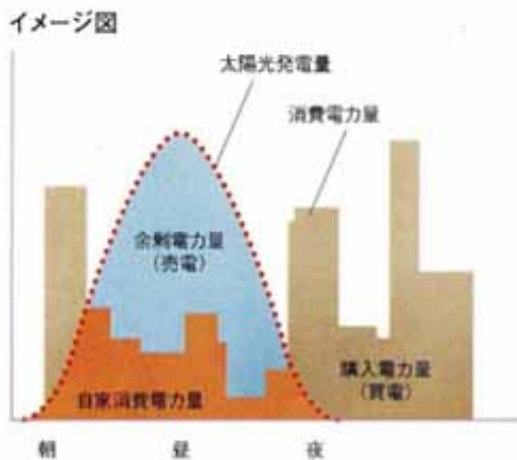
電力買取価格2倍に！！

24円/kWh → 48円/kWh(10年)

×切り H23年3月31日まで

太陽光発電からの余剰電力は東京電力が買い取り

東京電力では、「太陽光発電の新たな買取制度」により、太陽光発電で発電した電気のうち、自家消費した分を差し引いた余りの電気(余剰電力)を買い取りしています。



2009年11月1日より「太陽光発電の新たな買取制度」が開始

買取単価		
区分 太陽光発電設備容量	住宅用(低圧供給)	
	太陽光単独の場合	その他発電設備等を併設の場合
10kW未満	48.00	39.00
10kW以上	24.00	20.00

(円/kWh、税込)

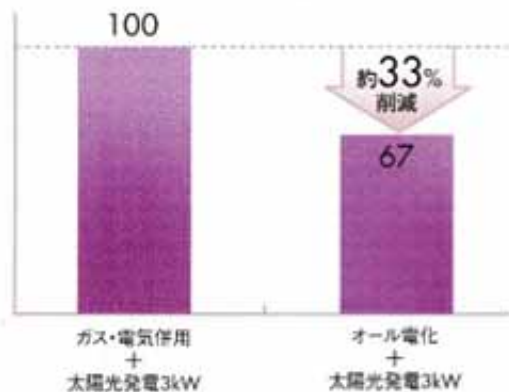
- ※単価は、2011年3月31日までに太陽光発電設備の設置申込みを受け、同年6月30日までに買取を開始した場合(新買取制度における買取単価の適用開始日より前に設置されたものを含む)に適用いたします。
- ※「太陽光発電設備容量」とは、太陽電池の出力とインバータの出力のうち小さい方の値となります。
- ※「その他発電設備等を併設の場合」とは、太陽光発電設備以外の自家発電設備等(家庭用燃料電池、ガスエンジン、蓄電池等)を併設されている場合で、かつ、当該設備から発生した電気の当社系統への逆流はないものの、当該設備の併設によって太陽光発電設備から発電された電気の当社系統への逆流流量が増加しうる場合をいいます。
- ※発電事業目的で設置されたもの等については、買取対象外となります。

新買取制度における買取単価は、2009年11月の検計日以降発生する余剰電力について適用いたします。太陽光発電設備を設置以降10年間は、同一の買取単価で買い取らせていただきます(新買取制度実施以前に設置された場合は、2009年11月の検計日以降10年間といたします)。なお、買取単価は年度ごとに低減される方向で見直されていくことになっています。

太陽光発電を採用したオール電化住宅は環境に優しく経済性も抜群

昼間は太陽の光で発生した電気を使い、夜は空気の熱を活用してエコキュートでお湯を沸かす。太陽光発電とオール電化住宅を組み合わせれば、環境にもお財布にも優しい暮らしが実現します。

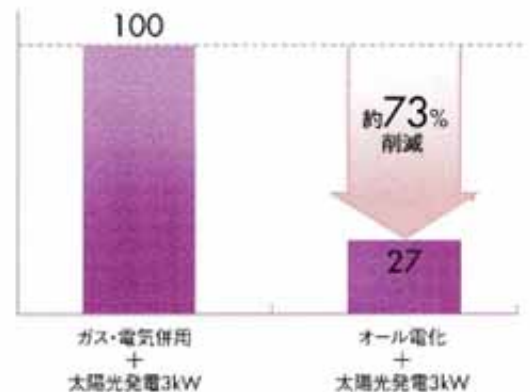
環境性の比較(CO₂排出量)



試算条件

F53参照 また、CO₂排出単位は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(電気は新潟県中越前地域以降の柏崎刈羽原子力発電所停止による影響がない東京電力2006年度実績値0.339kg-CO₂/kWh、なお直近の2008年度実績排出単位は0.418kg-CO₂/kWh)による。

経済性の比較(ランニングコスト)



試算条件

F53参照

